

## I. はじめに

尚絅学園は平成25年度に学園の将来計画である「長期ビジョン(将来像)と中長期行動計画」を制定し、その後、平成27年度、平成29年度、令和元年度と計3回の改定を行いながら、学園の将来像実現に向け取り組んでまいりました。

そうい中、昨年度は学校教育法・私立学校法の改正、高等教育無償化、初等、中等教育における新学習指導要領や2040年に向けた高等教育のグランドデザイン等が示され、学園を取り巻く環境が大きく変化するとともに、その対応に追われる年になりました。

今年度は「建学の精神」「教育理念」を遵守しつつ、「長期ビジョンと中長期行動計画」のもと事業計画の着実な取り組みに努め、学園の持続的な発展に向けて、教学と管理・運営全般に亘る改革を一つひとつ実現させてまいります。

## II. 主な施策

### 1. 学園全体・学校法人

本学園が教育研究機関として社会の要請に応え、学生生徒等が充実した快適な学校生活を送るためには、経営力の強化、強固な財務基盤の構築、人材育成の強化、施設設備及び教育・研究環境の拡充が必要不可欠です。

#### ○経営力の強化

規律と誠実性を維持しつつ、学園を取り巻く環境変化に迅速に対応すべく、ガバナンス機能・組織マネジメントを強化し、更なる組織力の結集に努めます。

また、積極的な情報公開を進めることで、経営状況の可視化を実現してまいります。

#### ○強固な財務基盤の構築

収支バランスの不均衡解消に向け、強固な財務基盤の確立が喫緊の課題となっています。

学生生徒等の定員未充足の解消や学生生徒等納付金見直し後の課題抽出、補助金等の確実な獲得や部門別収支状況に基づく収支改善及び経費支出の厳正な管理により、適正な収支バランス確保に注力してまいります。

#### ○人材育成の強化

学園・設置校に有為かつ適正な人員を確保しつつ、多様化する学生・生徒等へ適切かつ的確な対応ができる人材育成を強化してまいります。

特に、人材育成計画の構築と有効性のある研修体制の確立に取り組むことで、教職員一人ひとりの資質・能力向上と職能開発の促進に努めます。

#### ○施設設備及び教育・研究環境の拡充

施設設備計画に則り、教育・研究のための施設・設備の拡充に努めるとともに、危機事象に対する機動的・有効的な危機管理体制の強化とインフラ整備に努めます。

### (1) 経営力の強化

重点施策	具体策
1. ガバナンス強化と自律的な内部統制の充実 (1) 役員の責任と権限の明確化及び監事機能、評議員会機能の充実 (2) 「ガバナンス・コード」の遵守 (3) 三様監査体制による監査機能の強化と内部統制の充実 (4) 次期中長期行動計画・中期財務計画・中期人員計画、施設設備計画等の策定	① 私立学校法及び寄附行為の改正に伴う、理事・監事・評議員それぞれの責任及び権限に関する点検の実施 ① ガバナンス・コードに基づく大学機能の点検と業務改善の実施 ① 内部監査結果を反映した業務執行体制の強化 ② 監事・監査法人・内部監査室の3者間での監査結果の情報共有と機能強化 ③ 教育改革の推進状況の検証 ① 次期中長期行動計画・中期財務計画・中期人員計画・中長期施設整備計画の立案に必要な情報の収集と研究
2. 組織マネジメントの強化と円滑なコミュニケーションの確立 (1) 法人部門と教学部門の機能・役割の明確化と連携強化及びそのための仕組みや工夫の構築 (2) 規程の整備促進及び権限と責任の明確化による厳格な運用の実施 (3) 自己点検評価・外部評価を活かしたPDCAサイクルによる業務改善・業務執行の充実 (4) リーダーシップとボトムアップのバランスの確保	① 常勤理事会、事務部門会議による意思決定と周知の徹底及び業務遂行のスピードアップの実現 ① 各種規程と業務運用における整合性の点検及び見直し ② 学内規程と関連する法規との整合性についての点検及び見直し ① 自己点検評価及び外部評価による課題の抽出と業務改善の実施 ① リーダーシップによる業務遂行状況の把握と検証 ② 意見具申や提案し易い環境の醸成と意識改革の推進
3. 積極的な情報公開と経営状況の可視化 (1) 積極的な情報公開のための体制及び規程等の整備 (2) 広報態勢の抜本的見直しと法人・教学部門の連携	① 情報公開規程の制定に伴う適切な情報開示状況のチェックと見直し ② 私立学校法改正に伴う情報公開の充実と着実な実施 ① 各設置校の広報態勢の見直しと機能強化及び役割の明確化 ② 学園全体広報と設置校の広報の一体感の醸成と連携強化

(3) 広報戦略の明確化と戦略的広報の展開	① 年間スケジュールの立案と費用対効果を充分反映した広報の実現 ② 広報ツールや他学の広報戦略の調査・研究と戦略的広報への重点的資源投入
4. コンプライアンスの遵守と職場環境の改善 (1) コンプライアンスに基づいた業務執行体制の確立と厳格な運用 (2) 人権・人格に配慮しハラスメント等のない職場環境の確立 (3) 働き方や時間管理の見直しによる職場環境の改善	① 行動規範の周知徹底及び実践・遵守の徹底 ② 職員就業規則等諸規定の厳格な運用 ① ハラスメント研修の実施による理解・認識の向上と防止・抑制の着実な実施 ② 人権・人格を尊重した規律ある職場の確立と違反者への厳格な対応 ① 客観的な勤務時間の管理及び有給休暇取得の管理の厳正化 ② 働き方改革に対応した制度改革の研究と規程の点検・整備及び厳格な運用
5. 教職協働と組織力の結集 (1) 委員会・会議体等の活性化と教職協働の推進 (2) 中高大連携の強化による総合学園としての強みの発揮 (3) 同窓会・後援会・保護者会の組織力の増強と設置校・法人との連携強化	① 委員会、会議体等の進捗状況の管理と会議体の機能性についての点検 ① 中高大連携推進協議会による具体的な取り組みの制度化及び内部進学強化 ① 各設置校における同窓会組織との連携強化および設置校と法人との相互協力体制の構築

(2) 強固な財務基盤の構築

重点施策	具体策
1. 安定した財務基盤の確立と将来に向けた着実な施設設備積立の実現 (1) 中期財務計画に則った厳格な財務運営の実現 (2) 施設設備計画の妥当性・計画実現性を考慮した着実な施設設備資金積立の実施	① 中期財務計画の実現性の検証 ② 予算管理の徹底と中期財務計画に基づく財務運営の検証 ① 中期財務計画に則った施設設備資金積立の実施
2. 収支バランスの確保と筋肉質な財務体質への転換 (1) 学生生徒等の定員未充足の解消と学生生徒等納付金の見直しによる収入の確保 (2) 補助金等の確実な獲得と新たな補助金へのチャレンジ (3) 収入の多様性を図るための外部資金や寄付金等への取組の促進 (4) 経費支出の厳正な検証と抜本的な削減・見直しの実施 (5) 予算編成の堅確化と予算内運用の厳正化の促進	① 学部学科及び各学校の学生生徒納付金等の見直し後の現状把握と、今後の課題への積極的対応 ② 学部学科及び各学校の定員充足率向上に向けた分析と施策の検討 ① 特別補助の条件充足に向けた情報収集と、採択要件となる課題への積極的対応 ① 尚絅学園創立130周年記念募金第1期(H30/4～R3/3)募集の継続 ② 古本募金募集の継続と拡大策の実施 ③ 教職員の連携による科研費等外部資金獲得のための情報収集と積極的応募の奨励 ① 予算計上に係らず執行時における法規性・適正性・効率性等の検証と予算外執行への厳格な対応 ② 部門別(設置校別・学部・学科別)の収支状況分析に基づく、収支改善策の立案と実施 ① 予算編成の堅確化と不要不急な経費支出の抑制

(3) 人材育成の強化

重点施策	具体策
1. 人事政策と人事管理・労務管理体制の確立 (1) 人事管理・労務管理体制の強化と多様な人材登用に対応するための体制整備 (2) 適材適所への配属と必要妥当な人員配置の実現 (3) 公平性・公正性・納得性のある人事評価の確立と適正な処遇への反映	① 人事・労務管理者に対する研修制度の充実 ② 採用方法及び採用基準等の見直しと実施 ① 自己申告書の活用による適材適所への人員の配置 ② 業務量及び業務経験に基づく適正配置の実施 ① 人事評価における面談・フィードバックの実施による能力開発と意欲の創出 ② 公平性・公正性・納得性のある人事評価制度の継続と改善
2. 教職員の資質・能力向上と職能開発の促進 (1) 人材育成計画の構築と有効性のある研修体制の確立 (2) 全学的なFD・SDの活用及び教職員の組織運営への積極的な参画の醸成	① 業務内容に直結する研修の実施 ② 経験年数等に応じた階層別職員研修の実施 ① SD・FDの内容の充実及び参加率の向上

(4) 施設設備及び教育・研究環境の拡充

重点施策	具体策
<p>1. 環境変化に対応した教育・研究環境の充実</p> <p>(1) 施設設備の点検強化と既存施設設備の有効活用</p> <p>(2) バリアフリー化への的確な対応</p> <p>(3) 高度情報化やグローバル化にも対応した快適な教育研究環境の実現と学外利用の促進</p>	<p>① 既存設備の定期的な点検の実施</p> <p>② 既存施設設備の利活用の検討</p> <p>① 施設設備点検によるバリアフリー化の検討</p> <p>① ICT教育環境の充実及びグローバル化環境に対応する教育設備の検討</p> <p>② コロナ感染症に対応した遠隔授業や教育学修環境の整備促進</p> <p>③ 学外に向けた既存施設設備の利活用の検討</p>
<p>2. 危機管理態勢の強化とインフラ整備の促進</p> <p>(1) 危機管理体制の検証・見直しと機動性・有効性を担保した危機管理体制の確立</p> <p>(2) 情報システムに関する危機管理体制の整備とインシデント対応の強化</p> <p>(3) 防犯・防災・減災体制の確立と備蓄等を含めたインフラ整備の促進</p>	<p>① 危機管理委員会主導による危機管理体制の検証と見直し</p> <p>② 危機事象に対する危機管理体制の実効性と機動性の検証</p> <p>① 情報システム管理体制の点検と見直し</p> <p>② インシデント対応の即時性の構築と検証</p> <p>③ 情報セキュリティ教育の強化</p> <p>① 具体的な防犯・防災・減災体制の見直しとインフラ整備の推進</p> <p>② コロナ感染症に対応した衛生管理と防疫体制の整備</p>
<p>3. 将来構想とそれに基づく施設設備計画の立案</p> <p>(1) 将来構想の具体化</p> <p>(2) 財政的リソースを伴った施設設備計画の立案</p>	<p>① 学部・学科の改組や4年制課程の新設等による教育改革に連動した将来構想の具体化</p> <p>① 将来構想を踏まえた中長期施設設備計画の立案と実現性の検証</p>

2. 尚綱大学・尚綱大学短期大学部

2020年度は、「長期ビジョンと中長期行動計画」に則り、学園の持続的な発展に向けての具体的な施策を立案し、着実に実施して参ります。

本学の課題である入学定員の確保については若干改善されつつありますが、継続できるように努めなければなりません。そのために、学生や高校生、社会のニーズを汲み上げながら、ニーズに応じた体制の整備と多様な学生の確保に努めるとともに、各学部・学科の独自性を生かした魅力度アップに取り組み、新型コロナウイルス感染防止対策も考慮した戦略的な広報活動を迅速に展開し、高大連携については協働体制を強化しながら、学生確保に尽力します。教育と学修においては、教育の質的転換による教育改革の推進とともに、新型コロナウイルス感染防止に対応した遠隔授業を含めた学修環境の整備に取り組み、新たに設置されたグローバル化推進センターの活動を展開します。また、現代文化学部の九品寺キャンパスへの移転については予定どおり年度内に実施し、こども教育学部(仮称)の設置については、設置準備委員会を中心に作業を進め、年度内に設置認可申請書を提出する計画です。

学生支援については、学修支援センター、就職・進路支援センターや学生支援委員会等の活動を一層充実させ、特に新型コロナウイルスの影響を考慮した就職指導を強化し、学生の満足度向上に努めます。研究については、研究環境の整備と産学官の連携に基づく共同研究の推進、外部資金の獲得及び研究倫理の遵守に取り組みます。社会連携に関しては、尚綱食育研究センター、尚綱子育て研究センター、尚綱ボランティア支援センターの活動を活性化するとともに、尚綱地域連携推進センターの機能強化を図り、社会的貢献の諸活動を推進し、本学の地域社会での存在感を高めます。また、生活科学部・食物栄養学科・幼児教育学科と附属こども園の教職員を中心に担われている尚綱食育推進プロジェクトにおいては、組織の充実を図りながらさらに研究活動を推進し、研究成果を発信します。

IR及び自己点検に関しては、大学内外のデータの収集分析に努めて大学の適切な運営を支え、第3期に入った認証評価における内部質保証の課題に適切に対応できるよう、外部評価を含めた点検評価を実施します。

(1) 教育と学修の充実

重点施策	具体策
<p>1. 質の高い教育の実施</p> <p>(1) 建学の精神、教育理念に基づく自校教育の推進</p> <p>(2) 教育方法及び教育体制の点検と改善</p> <p>(3) 教育課程の点検と改革</p> <p>(4) FD及びSD活動の推進</p> <p>(5) 実務家教員他多様な人材の登用</p>	<p>① 三つのポリシーの運用状況を全学的に点検・評価</p> <p>② 基礎セミナーの検証と改善</p> <p>① 第3期認証評価システム(内部質保証)に関するPDCAサイクルの確立</p> <p>② シラバス記載内容のチェックと改善</p> <p>③ 学生代表者の参画による点検・評価</p> <p>④ ティーチング・ポートフォリオ導入の検討</p> <p>⑤ ICTやアクティブ・ラーニングを活用した教育の推進</p> <p>⑥ 数理的思考やデータサイエンスなどに関する授業科目の検討と実施</p> <p>⑦ 複数学科における合同開講授業の検討と実施</p> <p>⑧ 全学的なグローバル化の推進と外国語学修支援のあり方の検討</p> <p>⑨ 遠隔授業に関するガイドラインの作成及び実施と検証</p> <p>⑩ 語学科目以外に主に英語で行う授業科目の導入の検討</p> <p>① 全学的な教養(教育)科目や初年次教育の検証と改善</p> <p>② IR情報を利用した教育課程の検証と改善</p> <p>③ 履修系統図・科目ナンバリング作成による全授業科目に係る体系的・有機的連携の検証</p> <p>① 授業改善アンケートの実施</p> <p>② オープンクラス・ウィークの実施</p> <p>③ FDに関する学生の代表または学外者からの意見聴取</p> <p>④ アセスメント・ポリシーを踏まえた成績評価に関するFDの実施</p> <p>⑤ 学内研修会の開催</p> <p>⑥ 学外研修会への積極的参加</p> <p>① 実務経験のある教員による担当可能な授業科目調査及び授業内容の検討</p> <p>② 様々な専門分野の外国人教員採用の検討</p>
<p>2. 学修支援と学修成果向上への取組の実施</p> <p>(1) 免許・資格取得のための教育課程・指導体制の整備</p> <p>(2) 学修成果の計測・評価・情報公表</p> <p>(3) 学修支援の強化及び学修成果の向上</p>	<p>① 教職課程再課程認定への事後対応</p> <p>② 教員免許状更新講習の実施</p> <p>③ 熊本市立中学校・熊本地区大学教育実習連絡協議会の令和2年度当番校としての対応</p> <p>① ディプロマ・サブプリメント(評価マトリックス等)の作成、配付</p> <p>② 評価マトリックス以外(ループブック等)による学修成果の計測・評価の検討と実施</p> <p>③ アセスメント・チェックリスト等を用いた学修成果の可視化・情報公開の検証</p> <p>④ GPAの具体的運用法及び公表状況の確認と検証</p> <p>① 学修支援センターにおける基礎学力支援</p>

(2) 学生の確保

重点施策	具体策
<p>1. ニーズに応じた体制の整備と多様な学生の確保</p> <p>(1) ニーズ調査及び分析を踏まえた学部・学科の改組及び学部設置等の検討と取組</p> <p>(2) 入試方法の改革</p> <p>(3) 入試広報の充実</p> <p>(4) 社会人入学生受入れの強化</p> <p>(5) 正規留学生受入れの検討と実施</p> <p>(6) 高大連携の推進と内部進学率の向上</p> <p>(7) 同窓会との連携強化</p> <p>(8) 入試奨学金制度の創設</p>	<p>① 現代文化学部所在地移転の準備と実施</p> <p>② 生活科学部におけるコース・資格等導入の検討</p> <p>③ 卒業生座談会を実施して「地域に根ざした人材育成のあり方」を検討</p> <p>④ 英語以外の語学系授業の導入検討</p> <p>⑤ 情報リテラシー関連授業科目の名称・内容変更の検討</p> <p>⑥ 授業の新規開講に向けた高校生対象のニーズ調査の実施</p> <p>⑦ 幼児教育4年制課程(新学部)設置認可申請書の作成及び提出</p> <p>⑧ 学生のニーズに適応した授業科目・免許・資格等の調査・研究及び導入の検討</p> <p>① 大学入学者選抜改革の趣旨を踏まえた対応策の検討と実施</p> <p>② 「学力の3要素」について多面的・総合的に評価できる入試方法の策定</p> <p>③ アドミッションポリシーに則した多様な入学者選抜方法の実施</p> <p>④ 長期的、全学的観点からの入試戦略の策定と実施</p> <p>⑤ 入試ミスの発生余地を極小化した入試実施策の策定と実践</p> <p>⑥ 大学と短期大学部、学部学科間の各種運用策の統一化</p> <p>① 高大接続を踏まえた情報提供型の広報イベントの充実拡大</p> <p>② オープンキャンパスの実施時期・実施内容の見直し</p> <p>③ 非集合型・非対面型による入試情報に関する広報施策の検討と実施</p> <p>④ 有効なソーシャルメディアネットワークの活用策の策定と運用</p> <p>⑤ 奨学金制度の拡充と周知による志願者増加策の実施</p> <p>⑥ 広域広報活動(ADの有効利用方法等の再検討)と地方試験拡大の可能性検討</p> <p>① 専門実践教育訓練講座の指定校としての周知広報</p> <p>① 正規留学生受入策の策定</p> <p>② 海外における志願者募集方法の検討と実施</p> <p>③ 外部検定等を利用した入学者選抜方法の実施</p> <p>① 高大接続を踏まえた入学者選抜方法の検討</p> <p>② 高大連携・広報戦略としての学修支援(受験前教育)等による信頼関係の構築</p> <p>③ 高校等への出前授業・進学ガイダンス及び高校との合同授業の実施</p> <p>④ 内部進学率の向上を目的とした尚綱高校に対する出前授業・高大連携授業等の実施</p> <p>⑤ 高校との教職員同士による合同研修及び定期的な協議体制の構築</p> <p>① 同窓会との連携強化と志願者情報の収集・提供等の拡大</p> <p>① 給付型入試奨学金の拡充と見直し</p> <p>② 減免型予約奨学金の新設</p>

(3) 学修環境の整備

重点施策	具体策
<p>1. 安全で快適な学修環境の整備</p> <p>(1) 教育施設のバリアフリー化を含む整備と安全管理の実施</p> <p>(2) 学生の心身の健康維持・向上及び特別支援を要する学生への支援</p> <p>(3) 図書館の整備と図書館活用の推進</p> <p>(4) 防犯・防災のための危機管理体制の整備と強化</p> <p>(5) 情報環境の整備</p>	<p>① 障がい等特別支援を要する学生に対する環境整備</p> <p>① 障がい有する学生の障がい状況等に応じた適切な支援</p> <p>② 保健室・カウンセリング利用状況調査の活用</p> <p>③ 疲労蓄積度調査の集約及び活用、質問項目見直しにむけての検討</p> <p>④ 学生生活実態調査の集約及び活用、質問項目見直しにむけての検討</p> <p>⑤ 新たな学生相談体制構築のための検討</p> <p>① 図書館資料・情報資源の充実と利用促進</p> <p>② 図書館利用環境の改善</p> <p>③ 現代文化学部移転に伴う資料の移動</p> <p>① 学生及び教職員に対する消防訓練などの実施</p> <p>② 防災・防犯対策用品の整備</p> <p>③ 教職員に対する防犯・救急措置法などの講習実施</p> <p>① 無線環境の整備と有効活用</p>

(6) ハラスメントの防止	① 学生生活実態調査の集約 ② 保健室・カウンセリングの学生相談状況調査の活用 ③ ハラスメント防止ガイドライン及び相談窓口の周知 ④ 教職員に対する研修
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------

(4) 学生支援の充実

重点施策	具体策
1. 学生生活に対する支援 (1) 中途退学防止への取組  (2) 学納金の免除・減額制度導入の検討 (3) 奨学金・表彰制度の充実  (4) 学生寮(如蘭学寮)の整備と管理	① 現状分析と中途退学者防止策の検討 ② 問題の早期発見に向けての観察の強化及び情報の共有 ③ 障がい等特別支援を要する学生への支援 ④ 退学防止の為に用意されている支援策・制度の学生への周知を徹底  ① 学納金免除・減額制度の適切な運用体制の充実 ① 奨学金制度の現状を分析し、学生のニーズにあった制度を構築 ② 表彰制度の内容の検討、学生への周知 ③ 学生への各種奨学金の周知  ① 現状分析及び改善事項の対応
2. 自治的活動の活性化に対する支援 (1) サークル活動活性化の支援  (2) ボランティア活動の支援  (3) 尚綱祭の支援	① サークル活動費使用等に対する助言と支援 ② サークル活動の実態把握と活動に関するサポート ③ クラブ・サークル広報の強化 ④ クラブ室の環境整備  ① ボランティア支援センターの周知 ② 学生を主体としたボランティア活動の活性化 ③ ボランティア募集情報の広報強化の検討 ④ ボランティア活動保険の周知及びその加入支援  ① 尚綱祭に対する助言と支援
3. キャリア形成・就職支援 (1) 教職協働でのキャリア形成、就職・進路支援活動の充実強化	① 学科に応じた適正な「就職(進路)指導」計画の立案と運用 ② 「就職対策講座」の安定的開講による筆記試験対策の強化 ③ 夏季及び春季のキャリアガイダンスの充実 ④ インターンシップ、合同会社説明会への参加の活性化 ⑤ 「就職懇談会」の充実と教授会等への結果の確実なフィードバック ⑥ 資格取得・能力認定試験に関する講座の安定的開講と支援 ⑦ 個別面談等による就職未内定者に対する支援の強化 ⑧ ウェブ面接等コロナウイルスの影響を考慮した就職指導の強化 ⑨ 保護者向け情報発信の強化による保護者との連携の緊密化

(5) 研究力の強化

重点施策	具体策
1. 研究倫理の遵守 (1) 研究倫理の遵守のための諸活動の推進	① 研究倫理に関する諸規程の内容の確認及び教職員各自の役割の確認 ② 研究活動の不正防止のための研究倫理教育の実施 ③ 競争的資金等の運営・管理に関する不正防止計画の策定 ④ 競争的資金等使用ハンドブック2020の作成と配布 ⑤ 競争的資金等の運営・管理に関する不正防止計画の策定管理に関するコンプライアンス教育の実施
2. 研究力の向上と研究活動の活性化 (1) 教員の研究力の向上と研究活動の活性化 (2) 研究環境の整備 (3) 尚綱子育て研究センターの研究力向上と活動の活性化	① 産学官連携に基づく共同研究の推進 ① 研究設備・機器の計画的購入・更新・整備 ① 乳幼児保育研究会の定例開催と保育現場と共同した実践研究 ② 附属こども園との連携(発達支援、3歳未満児保育に関する研究) ③ 尚綱食育推進プロジェクトへの協力・連携 ④ その他、保育・子育てに関する調査・研究 ⑤ 『児やらい』第17巻の発行、学園webによる情報発信

(4) 尚綱食育研究センターの研究力の向上と活動の活性化	① 尚綱食育の日の実施 ② 郷土料理教室の実施 ③ 学食レシピコンテストの実施 ④ 尚綱食育シンポジウムの開催 ⑤ 尚綱乳幼児食育研究会の開催(保育現場の食育推進と安全な給食提供の実践的研究)
3. 研究費の効果的配分と外部資金の獲得 (1) 研究経費の効果的配分 (2) 外部資金獲得の支援	① 科研費の申請状況に基づく特別研究費の傾斜配分 ② 学内共同研究への特別研究費の配分 ① 外部資金に関する情報の提供と講習の実施

(6) 社会連携の拡充

重点施策	具体策
1. 産学官民との連携 (1) 尚綱子育て研究センターの地域連携と地域貢献 (2) 尚綱食育研究センターの地域連携と地域貢献 (3) 尚綱ボランティア支援センターの地域連携と地域貢献 (4) 尚綱地域連携推進センターによる地域連携の推進 (5) 大学コンソーシアム熊本を活用したプラットフォームの形成	① 保育者の早期離職予防としての相談支援、交流会「保育カフェ」の開催 ② 附属こども園子育て支援室との連携による地域子育て支援・相談、交流会「子育てカフェ」の開催 ③ ひとり親世帯・生活の厳しい世帯の子どもと親への専門性を活かした相談支援(シンママ熊本応援団・熊本県ひとり親家庭福祉協議会「てとてとて」・こどもゆめまもる基金等との連携による支援活動・調査研究) ④ 第20回公開シンポジウムの開催 ⑤ 第7回保育実践講演会の開催 ⑥ 子どもの生活リズムや食をテーマにした子育て講演会の開催(よかあんばい JAPAN・NPO法人One Field(菊陽町)等との連携) ⑦ 熊本県地域型連絡協議会(小規模保育・家庭的保育)との協力・連携(定例会議の開催、現任者研修会の開催) ① 熊本市子どもの食育ネットワーク研修会への協力 ② 自治体等が開催する各種イベントへの参加協力 ③ 自治体や企業へのレシピ提案等による地域貢献 ④ 天草地区漁業士会との協定活動の推進 ① 地域社会と連携したボランティア活動の検討・企画 ① 連携を研究、教育に幅広くいかすため、全学科、3センターとの情報共有 ② 包括協定先との定期的な情報交換、共同事業の実施 ③ 武蔵ヶ丘近隣6校区長との定例会議の開催 ④ 産学連携を念頭に企業等との協定を推進 ⑤ 東海大学九州キャンパスとの協定活動の推進・支援 ⑥ 「くまモン」学講座の開催 ① プラットフォームへの参画及び中長期計画への取り組み
2. 本学が有する資源の地域社会への還元 (1) 公開講座の開催 (2) 高大連携の推進 (3) リカレント教育の推進 (4) 学校施設等の開放	① 尚綱公開講座、サマーセミナー、現代文化学部・文化言語学部公開講座の開催 ① 高大接続を踏まえた大学の知的資産の地元高校、高校生への還元 ② 高大連携・広報戦略としての学修支援(出前講座)等による信頼関係の構築 ① リカレント教育の実施状況の把握と検証 ① 近隣住民、公開講座、卒業生、こども園保護者等への図書館利用の活性化 ② 利用希望者への体育館、教室当施設の開放促進
3. 同窓会との連携 (1) 同窓会との連携によるホームカミングデイの実施と改善	① 来場者の増加のための検討 ② 各学科における事業内容の検討

(7) 国際交流の体制整備と拡充

重点施策	具体策
1. 海外の教育研究機関との連携 (1) 国際交流に関する基本方針の策定と体制整備の強化	① 大学・短期大学部の国際交流に関する基本方針の策定 ② グローバル化推進センターの整備と活用 ③ 国際交流業務の教職員役割分担の整備 ④ 正規留学生の受け入れについての検討

(2) 既存の提携教育研究機関とのさらなる連携の強化 (3) 新たな教育研究機関との交流協定締結の検討	① 各交流協定締結校との連携強化 ② 各交流協定締結校とのリモート交流の検討 ① アメリカ等英語圏の教育研究機関との連携の検討、推進
2. 交換留学生の派遣と受け入れ (1) 交換留学生の派遣と受入の適切な実施	① 各交流協定締結校との連携による交換留学、短期語学留学、相互研修(派遣、受入)の実施 ② オンラインを利用した相互研修の研究 ③ 交換留学生の学生チューター制度の活用

(8) IR機能強化と自己点検・評価への適切な対応

重点施策	具体策
1. IR機能の強化 (1) 大学企画室機能の充実と強化	① IR活動の推進 ② 大学・短期大学部事業計画の進捗管理 ③ 情報コンテンツを利用した情報発信及び大学広報の強化 ④ Data Bookの改訂・活用 ⑤ 各種アンケートに関する企画・実施・分析・公開
2. 恒常的な自己点検・評価システムの構築と実施 (1) 自己点検・評価の定期的実施・公表 (2) 外部評価委員会の設置と運営 (3) 第3期認証評価への適切な対応	① 自己点検・評価規程及び機関別認証評価基準に基づく自己点検・評価の実施 ① 規程に沿った委員会の開催と運営 ② 評価結果の事業計画書への反映 ① 特記事項の設定 ② 第3期認証評価に関する教職員のスキルアップ
3. PDCAサイクルの確立 (1) PDCAサイクルの確立と徹底	① 内部質保証システムの確立 ② 学修成果可視化の確立



### 3. 尚綱中学・高等学校

令和2年度は令和4年度(2022年度)から年次進行で実施される新学習指導要領を視野に入れて検討した平成31年度(2019年度)の計画を再検討し、さらなる事業内容の充実と新しい事業の取り組みを以下のように策定しました。

- (1) 特色ある教育の確立については、「建学の精神」「教育理念」を基に、魅力ある授業や学校行事等を通して知識・技能・思考力等のバランスの取れた生徒の育成に努めると共に、新学習指導要領の内容を踏まえ、学力向上及び授業改革に取り組みます。また、徳育・情操教育・女子教育の充実を図り、社会的・職業的自立に向けて必要な能力が身につく取り組みを行い、グローバルな社会で活躍できる人材を育成するために生徒の国際交流の活性化を推進します。
- (2) 教育の質向上については、生徒に「何ができるようになるか」という具体的な目的を明確に示すことにより「何のために学ぶのか」という学習の意義を生徒が自ら考えるような授業展開を行います。その為に新学習指導要領に対応したカリキュラムを確立するとともに、タブレットを用いた授業内容や教育活動の質の向上のためのプログラム作成、また、今後、コロナウイルス感染症の更なる流行なども考慮に入れ、オンライン学習の研究を深め、新しい生活様式を取り入れながら学校行事や課外活動、広報活動に取り組みます。また、キャリア教育の充実にも努め、職業観の育成や職業人に求められる倫理観の育成を図ります。
- (3) 生徒支援の確立については、令和2年度から改正される就学支援金制度の内容を視野に入れて、生徒が安心して学べるように経済的に就学困難な生徒への各種制度を充実させると共に、育友会・同窓会・後援会との連携を一層深めて生徒の日常の学業・課外活動等の支援体制を整えます。
- (4) 地域貢献の充実については、社会のニーズに応じて環境活動や地域社会に積極的に参加できる人材を育成すると共に、地域に開かれた学校として学校の特色を活かした地域の行事の参加、ボランティア活動、及び各種大会を主催して地域への活性化に貢献します。
- (5) 学習意欲あふれる生徒の確保については、女子の総合学園として大学への内部進学を希望する生徒を募集する事に心掛けながら、様々な生徒を広く受け入れるためにコース毎の魅力を再構築します。また、特待生制度を更に充実させて、県下一円の地区から幅広く志願者を募ります。公立小学校・中学校に加えて学習塾や地域、保護者広報部との連携を深め、広報活動の充実を図ります。
- (6) 学校評価の意義と目的を全職員が理解して、学校運営に反映させ、より良い学校作りに活かします。

#### (1) 特色ある教育の確立

重点施策	具体策
1. 人間教育プログラムの充実 (1) 外部人材・事業の活用  (2) グローバル教育の充実  (3) 礼法教育の確立  (4) 諸活動のPDCAサイクルの確立	① 講演会、学年別講話、各種研修会等における公的機関等の人材活用 ② 校外での進路ガイダンスの活用 ③ 各種講演会・研修会の実施(DV防止・消費生活・選挙など推進授業) ① 長期留学生の受け入れと本校生徒との交流の推進 ② オンライン留学及び海外研修の研究 ③ 海外姉妹校・交流校とのリモート交流の検討 ④ ホストファミリーバンクの新規募集とショートステイの実施 ⑤ グローバルなテーマに関するスピーチ、ディスカッション、ディベートの実施 ① 「尚タイム」の毎週実施による聴く力と自尊心及び規範意識の向上 ② 教職員の礼法教育の研修及び意識の向上 ① 各行事(総合学習・LHR)を中心にPDCAの確立及び改善 ② 朝読書の充実及び図書館利用の促進
2. 魅力ある授業の確立 (1) 教科指導力の向上  (2) 授業改善の確立  (3) ICT教育の充実	① 外部研修会への参加、及び校内での授業研究の推進 ② 教科会の充実と中高入試問題作成スキルの向上 ③ 大学入試改革を視野に入れた入試問題の研究 ① 各分野における主体的・対話的深い学びのできる授業の研究 ② 研究授業の実施及び研究会の充実 ③ 学年毎の教科担当者会の実施及び分析研究 ④ 教科を超えた独自の主体的・協働的に学ぶ学習の検討 ⑤ グルーピング・協働作業の導入 ① 授業、進路指導、LHRなどでのiPadの積極的な活用 ② Classiの利活用の推進 ③ e-ポートフォリオによる生徒の状況把握と進路指導部との連携 ④ SKYMENUを活用した教師と生徒間での教材の共有システムの構築 ⑤ ICT教育の校内実践発表 ⑥ ZOOMを用いた教科ごとの授業研究
3. 進路指導の充実 (1) 進路指導力の向上	① 外部講師による進路指導研修の校内実施 ② ベネッセハイスクールオンラインの積極活用 ③ 新学習指導要領に則った進路指導の研究

(2) 進路研修会の充実	① 新大学入試制度の研究 ② テーマ及び内容の研究 ③ 入試改革に伴う外部講師による教員対象の研究会の実施
(3) 進路実績の向上	① 各入試選抜型に応じた受験指導の強化 ② 進路データの共有化とその利用の促進
(4) 課外授業の確立	① 全員課外(特進)の効果的な方法の検討 ② 尚綱ゼミの見直しと改善 ③ 学力格差の取り組みの充実
(5) 個別指導の強化	① 添削指導の徹底 ② 教科担当者による面談の徹底 ③ 低学力生徒の考査前学習会の実施 ④ 入試志望先に応じた個別指導の充実
(6) 進路指導体制の研究と実践	① 総合・一貫コース生徒の大学入学共通テスト、一般選抜対策の推進と充実 ② コースの成績上位者の進路指導研究と授業の実施
4. 各コースの特色づくり	
(1) 各コースの教育内容の研究と実践	① 各生徒の実態に合わせた教育内容についての検討 ② 大学入試改革に対応した教育課程の研究と作成 ③ 総合コース勉強合宿の推進 ④ 一貫コースにおける環境教育・グローバル教育の充実 ⑤ 新学習指導要領・新入試制度の研究とコース編成の研究
(2) 特色あるカリキュラム・選抜クラスの充実	① 校外活動などの幅広い体験活動の推進 ② 尚綱ゼミの有効活用 ③ 「総合的な探求の時間」の充実
(3) 各種検定試験の充実	① 教科担当者による検定試験受験の推進 ② 各教科の検定試験内容の検討 ③ 検定試験合格に向けての指導強化
5. 中高大連携の強化	
(1) 内部進学達成	① 入試連絡会の充実 ② 中学・高校・大学における相互の情報交換の推進 ③ 中高大連携キャリアサポートプログラムの作成
(2) 高大進学連絡会の充実	① 大学・短大の各学部・学科及び入試センターとの情報交換の充実 ② 連絡会の内容の充実
(3) 中高大連携事業・授業の確立	① 魅力ある学部学科説明会の開催及び大学授業体験の充実 ② 高大連携授業の継続と内容の検討
(4) 広報活動の連携強化	① 大学入試センターや入試アドバイザーとの連携強化 ② 学校訪問や塾訪問、入試説明会などの情報交換と資料提供 ③ 迅速かつ正確な進路実績等の情報提供 ④ 保護者広報部との連携

(2) 教育の質向上

重点施策	具体策
1. 主体的・対話的で深い学びの授業の確立	
(1) 教科の特質を活かした取り組みの研究と実践	① フィールドワークを通じた体験の充実 ② 各教科におけるAL教育の研究 ③ 教科毎の研究授業の実施と研究会の充実
(2) 言語能力の確実な育成	① 英語科によるディベート、プレゼン、スピーチの充実 ② (英語)日常の学校生活における英語使用の促進 ③ (国語)書く・話す能力の育成を目的とした発表・表現の充実
(3) 教科の横断的な学習の充実	① 教科の枠を超えた授業観察及び研究会の実施 ② 他教科とのコラボレーションの推進 ③ プレゼンテーション時のICTの活用促進及び研究発表の推進 ④ 現代社会と情報が連携した情報モラル教育
2. カリキュラム・マネジメントの研究と取り組み	
(1) 社会に開かれた教育課程の研究	① 社会に開かれた教育課程の研究及び作成 ② 大学コンソーシアム講義、熊大わくわく講義などへの参加奨励

(2) 理数教育の充実 (3) 伝統や文化に関する教育の充実 (4) キャリア教育の充実	① 新カリキュラム「理数探究・理数探究基礎」の研究 ① 礼法指導・マナー指導の徹底 ② 伝統文化の推進 ① 「総合的な探究の時間」の研究と有効活用 ② 進路ガイダンスの充実
3. 主権者教育、消費者教育、防災・安全教育などの充実 (1) 主権者教育、消費者教育等の充実 (2) ホームルーム活動、特別活動の充実	① 外部講師による講演会の実施 ② NIEに関する講演会の実施 ① 「総合的な探究の時間」の充実 ② 校内外の諸活動を活かした進路実現の拡充

(3) 生徒支援の確立

重点施策	具体策
1. 奨学生制度・表彰制度等の活用 (1) 制度を活用した生徒の支援	① 奨学生の採用及び特待生・奨学生制度の見直し ② 尚綱学園育英褒章の選考 ③ 花桜会奨学生(高校3年=2月、中学と高校1・2年=4月)の選出
2. 課外活動の充実 (1) 生徒会活動の充実  (2) 部活動の充実 (3) ボランティア活動の強化  (4) リーダー養成の活発化	① 生徒総会の実施と委員会の活性化 ② 生徒会主導による学校行事の実施と活性化 ③ 交通安全、情報モラルに関する生徒会からの啓発 ① 生徒会議による各同好会、愛好会の見直し ① ボランティア活動内容の検討及び推進 ② ボランティア活動報告会の推進 ① 生徒会、委員会、部活動代表者によるリーダー研修の実施 ② 定期的な委員会の開催 ③ 生徒会役員の校外研修会への参加
3. 教育相談の充実 (1) 生徒支援体制の確立  (2) カウンセリングの充実  (3) 外部組織・人的支援の活用	① 生徒情報共有化の職員研修の実施 ② 入寮生徒の支援の充実 ③ 入寮生徒へのカウンセリングの実施 ④ 入寮生徒の保護者会の実施 ① 個人面談の全校一斉実施 ② 専任カウンセラーの配置と連携強化 ① 保護者の希望によるスクールカウンセラーを囲む座談会の実施 ② 熊本県の派遣事業を利用したSSW、相談員との連携
4. 育友会・後援会・同窓会との連携の確立 (1) 学校行事での連携強化 (2) 保護者会の充実 (3) 同窓会・後援会総会等への出席の確立	① 入学式・卒業式、体育祭・文化祭、ホームカミングデイ、尚綱コンサート、金峰山登山などの行事を協働で実施 ① 学期ごとの保護者会や授業参観の実施 ① 管理職を中心に各行事に参加

(4) 地域貢献の充実

重点施策	具体策
1. 地域活動の支援 (1) 部活動等の合同練習会開催の確立 (2) ボランティア活動の充実	① 各部活動による立案及び実施 ① 地域の祭りや運動会の運営等のボランティア参加の推進 ② フードバンクのボランティアや街頭募金に参加 ③ 文化祭で復興支援の物品販売
2. 学校主催事業の充実 (1) 本校主催の各種大会の開催	① 小学生英語暗唱大会の開催 ② 中学生ソフトテニス尚綱杯の開催

## (5) 学習意欲あふれる生徒の確保

重点施策	具体策
1. 広報活動の充実 (1) 活動内容の再検討  (2) 広報部員のスキルアップ  (3) ホームページの充実  (4) 全職員対象研修会の確立  (5) 広報部の組織改革の確立  (6) 入試内容の検討 (7) 小学校・中学校・学習塾・個別訪問活動の充実	① 定期的な訪問活動内容の明確化 ② 在校生、保護者、花桜会の広報媒体としての具体化 ③ 活動時期・広報内容等の検討 ④ コロナウイルス感染症の影響を考慮したオープンスクール等の実施方法の検討  ① 県内外の学校視察の実施と広報部内の共有化及び研修 ② プレゼンスキル向上研修会の継続的实施  ① 正確な情報提供と内容の充実 ② 各種大会・コンクール等の結果の迅速な発信 ③ 他校のHPの研究 ④ 大会・コンクール等の入賞報告書の管理  ① 募集活動を中心とした私学教職員に求められる資質等の研究 ② ビジネスマナー等の講演会参加及び研究  ① 明確な募集の数値目標と改善項目の設定に基づいた訪問活動の実施の提示 ② 生徒募集における課題の共有化  ① 入試問題の研究や面接試問内容の検討  ① 担当職員の配置と全職員による定期的な訪問活動の実施 ② 学習塾、クラブチーム等への訪問活動の実施 ③ 熊本ゼミナール・明光義塾・その他主要な学習塾との連携強化
2. 入試制度の改革と訪問の強化 (1) 制度の周知徹底  (2) 特待生制度を活用した学力・特技に優れた生徒獲得の確立  (3) 指導者との連携の強化  (4) 入試制度の検討と充実	① 新しい特待生制度の検討 ② 受験生・保護者対象の資料作成の充実及びデータ管理の徹底  ① 小学校、中学校、学習塾、クラブチーム等への訪問・勧誘活動の強化と早期着手 ② 各種大会における視察活動の実施  ① 相互の情報提供と人脈形成の拡大 ② 各種大会における挨拶回りの実施  ① 入試形態の検討 ② 外国人生徒等の出願に対する検討
3. 小・中学生対象広報活動の強化 (1) 本校主催の大会等の充実  (2) 入試改革の達成  (3) 小学校・英語塾等の訪問強化	① 小学生英語暗唱大会・尚綱杯ソフトテニス大会の継続と充実 ② 各種大会誘致のための会場提供の推進 ③ 各塾主催イベント、模試等の誘致及び協賛 ④ バスケットボール、弓道、ギター・マンドリン、百人一首、吹奏楽部等の本校主催の大会やイベントの実施  ① 新入生の成績及び追跡調査の活用 ② 入試アドバイザーを中心に入試問題・入試制度等の検討 ③ WEB出願の検討  ① 本校周辺小学校への訪問強化 ② 在校生等の活躍・活動の発信 ③ 時期に合った適切な資料の提供 ④ ALTを活かした英語塾への働きかけの強化

## (6) 学校評価

重点施策	具体策
1. 内部評価委員による学校評価の実施 (1) 生徒・保護者による学校評価アンケートの実施 (2) 内部評価委員による自己評価の実施	① 生徒、保護者対象のアンケート調査の実施と結果の検討 ① 自己評価委員、全職員による評価の実施
2. 学校評価委員による学校評価の実施 (1) 学校評価委員による学校評価の実施	① 学校評価委員による評価の実施

#### 4. 尚綱大学短期大学部附属こども園

附属こども園では、「教育・保育要領の改訂や指針」(改訂等)に沿った教育・保育に努め、保護者支援を進めており、教育・保育の目標に照らし、尚綱こども園の特長を生かして、教育・保育の内容を改善しています。「尚綱こども園らしさ」とは、「子どもの発育にふさわしい自然の風情をそのままに、活かし、創り、環境の構成(教育的な意図)を図り、子どもの心身の発達を助長しているところ」と考えており、今後もこのことを軸に園経営を進めていきます。

教育課程研究会の幼児教育研究主題の流れは、「幼児の遊び」から「教師の関り」そして「評価」と歩んできました。最近「指導計画」に移っていることを機会に、今後、幼保一体の「年間教育・保育計画」の策定を進めます。

近隣地域は人口が増加しており、少子化や幼児教育の無償化の影響は少ないものの、本園の魅力を高め広報・啓発していく努力は必要だと考えます。そのために、在園児保護者にも地域保護者にとっても安心できる子育て支援を「どんぐりルーム」を中心に充実させていきます。

近年、支援や配慮を要する子どもが増え、安全性の確保はもとより、特性に応じた教育・保育の対応力、保育者の確保、療育との連携、保護者の支援等、重要性を増しており、課題も多くなっています。

さらに、学校自己評価(教員対象アンケート)によると教員は「さらに研修を重ねたい」と望んでいますので、今後は短期大学部をはじめ対外的な研修に積極的に参加して指導力を高める努力を支援していきます。

今後、学校法人としての社会貢献度を高めるためにも、地域社会や自治体・教委、小・中学校との連携も推進していきます。

学校関係者評価、第三者評価等の結果によると、保護者や第三者からいただいた評価では、園経営に満足しておられるが、改めて内容を吟味し今後の本園のさらなる向上に生かしていきます。

##### (1) 教育・保育内容の改革と尚綱らしさの追求

重点施策	具体策
1. 豊かな自然環境を生かした特色ある園づくり (1) 自然環境の整備 (2) 特別な支援を必要とする園児への環境充実	① 園全体の環境を活用・創造・構成する教育・保育の実践 ① 安全かつ特性に対応し、療育施設等と連携した実践 ② ICT等の視覚教材の充実
2. 教育・保育内容の充実 (1) 教育・保育内容の改善 (2) 大学・短期大学部及び外部専門機関との連携強化 (3) 主体的に自然を体験する学びの推進	① 年間行事や保育計画の見直し、実践と次年度への改善 ① 幼児教育学科及び食物栄養学科との連携時期の共通理解 ② 熊本大学及び熊本大学附属幼稚園との連携強化 ① 大学キャンパス内の林を活用し、学びの課程を意識した保育・教育活動の展開
3. 生きる力を育む食育活動の推進 (1) 園児が主体的関わる栽培と収穫活動 (2) 給食指導と食育活動が一体となった食育計画の作成 (3) 食育活動を中心としたカリキュラムマネジメントの作成	① 園児が積極的に栽培、手入れ、収穫に関わる場と時間の確保 ② ゲストティーチャーの積極的活用 ① 管理栄養士との連携強化と給食会議の活性化 ① 食育計画、給食献立、保育計画の連携強化とその発信

##### (2) 園児の確保

重点施策	具体策
1. 園児募集に関する方法と広報活動の改善 (1) 園児募集の方法の検討と実施 (2) 多様な広報活動の実施 (3) 保護者への説明会・見学会の強化 (4) 幼児教育無償化への対応	① 抽選制および、入園優先枠の検討 ① ポスター、パンフレット、保護者プレゼン映像等の専門業者活用 ② 保護者のSNS等の活用及びマスコミとの連携強化 ① 園の特色をPRするプレゼンの充実 ② スクールバス運行とバスコース・バス停の検討 ① 菊陽町との連携強化及び預かり保育増についての検討

##### (3) 子育て支援の充実

重点施策	具体策
1. 在園児保護者への子育て支援 (1) 講演会・子育て相談・援助の実施 (2) 延長保育・預かり保育の充実 (3) 特別支援教育の充実	① 園長による教育講演及び定期的な教育相談の実施 ② 個人面談の実施や保護者同士の連携を図る場の設定 ③ 家族的な雰囲気の中で遊びと生活が充実する乳児保育 ① 延長保育の申し込みシステムの改善と職員の連携強化 ① 定期的な発達相談会の実施 ② 町や市の特別支援教育連絡会や研修会への全員の参加 ③ 要支援園児に対する個別の指導計画の作成

(4) 健康管理の実施	① 迅速な健康診断の結果の連絡、対応把握 ② 園内の衛生検査や衛生管理に関する研修と健康管理の徹底
2. 地域保護者への子育て支援 (1) 子育て支援室の利活用 (2) 尚綱子育て研究センターとの連携 (3) 保育体験の実施 (4) 子育て相談、外部専門機関の紹介	① 利用者のニーズの把握と利用システムの改善 ① 尚綱子育て研究センター職員による最新の子育て情報の提供 ① 親子遊び体験及び2歳児、満3歳児クラスでの保育参加体験の実施 ① 子育て支援室担当職員やこども園職員による子育て相談や情報提供の実施 ② 大学・短期大学部講師陣による子育て相談会の実施と外部専門機関の紹介

(4) 教育・保育の指導力向上

重点施策	具体策
1. 園内研修の充実 (1) 新教育・保育要領に対応した研究保育の実施 (2) 特別支援教育・人権教育に関する研修の強化 (3) 子どもの主体性を育む環境会議の実施	① 主体的、共同的な活動を意識した保育・教育とその評価に関する共通理解 ① 園内支援委員会の定期的開催及びケース会議の活用 ② 園内研修及び支援に関わる特別支援教育士との連携・活用 ① ICTを活用した環境会議の実施
2. 研修会・研究会等の積極的参加 (1) 学園・大学・短期大学部関連の研修会への参加 (2) 特別支援教育・人権教育の研修会への参加 (3) 実技研修会・その他の研修会等への参加	① 尚綱学園、大学・短期大学部の主催する研修会へ1回以上の参加 ① 県、市、町及び全幼研、全保研等主催の特別支援教育等への1人1回の参加 ① 自然を活用し、体験活動を重視した保育・教育の研修参加 ② 研修内容の共有のための報告会の実施
3. 短期大学部との合同研修及び研究会の開催 (1) 短期大学部との定期的、計画的な連携 (2) 実習生指導計画案の内容検討	① 園内研修への計画的な参加、協力依頼 ② 運動能力テストの実施と保育への活用 ① 幼児教育学科職員と幼児棟職員の連携強化

(5) 地域連携の拡充

重点施策	具体策
1. 地域交流の充実 (1) 地域老人会との連携強化 (2) 世代間交流の推進	① 年間行事の参加依頼に加え、日常の保育活動へのボランティア参加に向けての模索 ① 祖父母との交流(新春の遊び会、夏の夜の森の遊び等)
2. 円滑な幼小連携の推進 (1) 職員による学校訪問と小学校職員に向けての公開保育の実施 (2) 就学に向けた連絡会の実施	① 小学校と継続的段階的に検討実施 ② 交流協力校への情報発信の強化 ① 菊陽町、合志市、熊本市の教育委員会との連携強化

(6) 学校評価の充実と活用

重点施策	具体策
1. 学校評価の活用 (1) 職員の自己達成目標と連動させた学校自己評価の実施 (2) 保護者アンケートの分析と活用 (3) 学校評価を生かした保育・教育活動の実施	① 学校評価と人事評価制度を活用した重点施策の共通理解と評価 ② 学校評価を活用した教育・保育活動の振り返り ① 保護者アンケートの趣旨と結果の活用についての周知 ① 学校評価を生かした年度末の反省と次年度への改善の実施